

技術情報

JA全農やまぐち
TAC 営農推進課 (083-988-0681)
平成25年8月21日 発行
第 180 号

斑点米カメムシ類の多発生続く

斑点米カメムシ類についてはすでに注意報が発令され防除対策をお願いしているところですが、引き続き発生が多いことから、8月20日付で病害虫防除所から技術資料が発表されました。

つきましては、下記及び発表の「発生予察技術資料第6号(写)」を参考に、被害防止に万全が期されますようご指導をお願いします。

記

1 予報内容

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生量 「多」

2 防除対策

(1) 薬剤防除

ア 既に出穂している圃場

- ・ 出穂後 20 日以降も斑点米は発生するため、クモヘリカメムシ等大型のカメムシ類が認められる場合は直ちに粉剤や液剤による防除を実施する。

イ 今後出穂する圃場

- ・ 粉剤、液剤では **穂揃期の防除を徹底し、その後も発生が認められる場合は7日後に追加防除**を実施する。
- ・ 粒剤の場合は **出穂期に遅れないように施用**する。

ウ 防除薬剤

- ・ 本田殺虫剤及び休耕田殺虫剤は裏面表のとおり。

3 防除上の留意事項

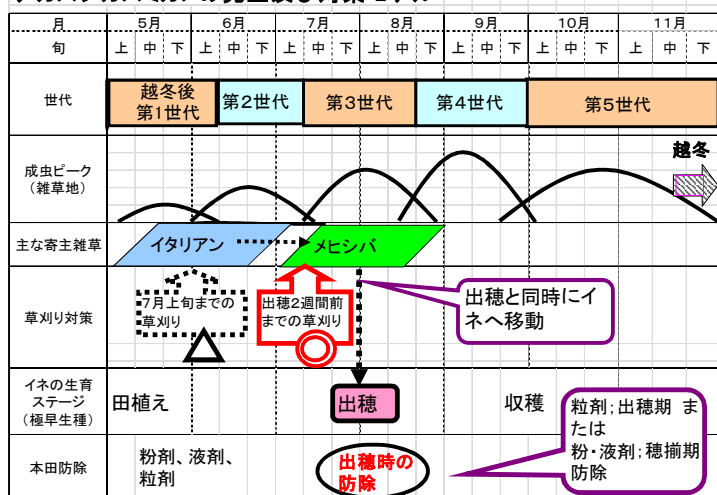
ア 主要種であるクモヘリカメムシはこれから成虫の最盛期となり、また、アカスジカスミカメも成虫が発生する(図)。そのため斑点米カメムシ類の圃場への侵入・加害は引き続き多いと考えられる。

イ 畦畔等の草刈りは、水稻の出穂直前や出穂後に実施すると斑点米カメムシ類の水稻への移動を助長するので留意する。

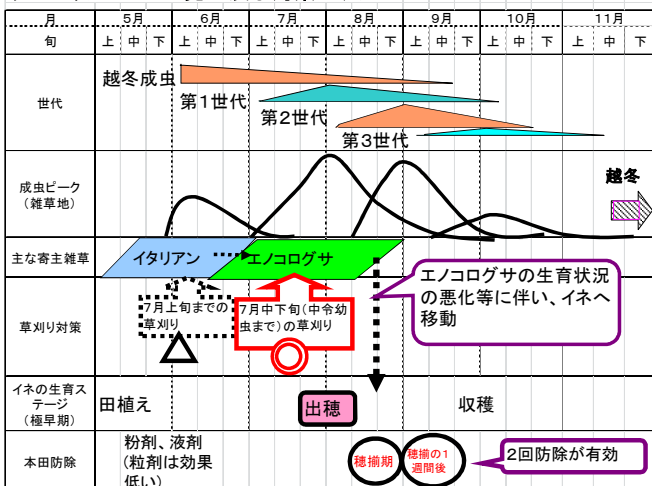
ウ アカスジカスミカメは出穂後早い時期に玄米の頂部を吸汁し、籾摺り後も被害粒として残ることが多い。これまでアカスジカスミカメによる被害がみられた圃場は、穂揃期の適期防除が重要。

エ 薬剤防除時に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除する。

アカスジカスミカメの発生及び対策モデル



クモヘリカメムシの発生及び対策モデル



(平成25年 農作物病害虫・雑草防除指導基準)

本田用殺虫剤		(平成25年7月16日現在、山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準掲載)						
系統	コ殺 ド剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
【粉剤】								
ネオニコチノイド	4A	スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	ダントツH粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	ダントツ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ピレスロイド	3A	MR. ジョーカー粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	—
ピレスロイド	3A	トレボン粉剤DL(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	速効性だが、浸透移行性は なく、薬剤が虫体にかからない と効果が劣る。
フェニルピラゾール	2B	キラップ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内	—
ピレスロイド,ネオ ニコチノイド	3A 4A	トレボンスター粉剤DL (普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,ジノテフラン4回以内(但 し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3 回以内)	—
フェニルピラゾール, ピレスロイド	2B 3A	キラップジョーカー粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内,シラフルオフェン2回以内	—
ピレスロイド,ネイ リストキン	3A 14	バダントレボン粉剤DL (普)(B,Bs)	4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,カルタップ6回以内	—
【液剤】								
ネオニコチノイド	4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤(普)(A)	2000倍,60~150リットル /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10 (普)(A)	1000倍,60~150リットル /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	ダントツフロアブル(普)(A)	5000倍,60~150リットル /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	ダントツ水溶剤(普)(A)	4000倍,60~150リットル /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ピレスロイド	3A	トレボン乳剤(普)(B)	1000~2000倍,60~150リッ トル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	—
フェニルピラゾール	2B	キラップフロアブル(普)(A)	2000倍,60~200リットル /10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内	—
有機リン	1B	スミチオン乳剤(普)(B)	1000倍,60~150リットル /10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	MEP3回以内(但し、本田では2回以内)	—
ピレスロイド,ネオ ニコチノイド	3A 4A	トレボンスターフロアブル (普)(B,A)	1000倍,60~150リットル /10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,ジノテフラン4回以内(但 し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本 田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回 以内)	—
ネオニコチノイ ド,IGR	4A 16	アブロードスタークルゾル (普)(A,B)	1000倍,60~150リットル /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内),プロフェジン4回 以内(但し、小包装投入は1回以内)	—
フェニルピラゾール, ピレスロイド	2B 3A	キラップジョーカーフロアブル (普)(A,A)	1000倍、60~200リットル /10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内,シラフルオフェン2回以内	—
【粒剤】								
ネオニコチノイド	4A	スタークル粒剤 アルバリン粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	スタークル豆つぶ(普)(A)	250~500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	ダントツ粒剤(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ネオニコチノイド	4A	ベストガード粒剤(普)(A)	4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	ニテンピラム4回以内	—
フェニルピラゾール	2B	キラップ粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布	エチプロール2回以内	大型種カメムシ類には効果が 劣る。
休耕田殺虫剤								
系統	コ殺 ド剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ネオニコチノイド	4A	ダントツ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	—	4回以内	散布	クロチアニジン4回以内	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカア ワダチソウ等の多年生雑草 が優占している休耕田で適 用
		ダントツH粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a					
		スタークル粉剤DL(普)(A)	3kg/10a		3回以内		ジノテフラン3回以内	
		スタークル顆粒水溶剤(普)(A)	2000倍,60~150リットル /10a					
		スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10 (普)(A)	1000倍,60~150リットル /10a					
ピレスロイド	3A	MR. ジョーカー粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	—	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	
		MR. ジョーカーEW(普)(A)	2000倍,60~150リットル /10a		3回以内		エトフェンブロックス3回以内	
		トレボン乳剤(普)(B)	2000倍,60~150リットル /10a					
有機リン	1B	スミチオン乳剤(普)(B)	1000倍,60~150リットル /10a	—	4回以内	散布	MEP4回以内	
フェニルピラゾール	2B	キラップ粉剤DL(普)(A)	4kg/10a	—	2回以内	散布	エチプロール2回以内	
		キラップフロアブル(普)(A)	2000倍,60~200リットル /10a					

平成 25 年度農作物病虫害発生予察技術資料第 6 号

平成 25 年(2013 年)8 月 20 日
山口県病虫害防除所

水稻の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ等）の発生 状況と防除対策について

このことについては、平成 25 年 7 月 16 日付け平成 25 年度農作物病虫害発生予察注意報第 1 号により防除を呼びかけているところですが、その後の調査においても多発生が確認されており、引き続き防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 8 月 6 日～9 日の巡回調査での出穂ほ場における 20 回すくい取りでは、発生ほ場率 65.4%(平成 24 年 39.8%)、虫数 1.8 頭(平成 24 年 0.9 頭)で平成 24 年に比べ多かった。主要種は、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメであった(図 1)。
- (2) 県内 4 か所の予察灯における 7 月 1 日～8 月 10 日の誘殺数は 2,028 頭(平成 24 年 870 頭)で平成 24 年に比べ多く、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメの誘殺数は特に多かった(図 2、図 3)。
- (3) 既に収穫された極早期コシヒカリの検査で、部分着色粒(カメムシの被害による斑点米)が目立っている。

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生量 多
- (3) 今後の予想 気象予報では今後も引き続き高温が予想されているため、カメムシ類の増加により被害の発生が予想される。

3 防除対策

- (1) 既に出穂しているほ場(コシヒカリ等)
出穂後 20 日以降も斑点米は発生するため、ほ場でクモヘリカメムシ等大型のカメムシ類が認められる場合は直ちに防除を実施する。
- (2) 今後出穂するほ場(ヒノヒカリ等)
穂揃期の防除を徹底し、その後もアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ等のカメムシ類が認められる場合は 7 日後に追加防除を実施する。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 粒剤はアカスジカスミカメ等小型のカメムシ類には効果があるが、クモヘリカメムシ等大型のカメムシ類には効果が低い。粒剤の防除は出穂期に行い、遅れないようにする。
- (2) カメムシ類は広範囲に移動するので、地域で一斉防除を行うと効果が高い。
- (3) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔で使用可能な農薬を使用し、畦畔も含めて防除を実施する。
- (4) 防除にあたっては、「平成 25 年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準」を参照し、使用時期等の農薬使用基準を遵守する(山口県病虫害防除所ホームページ参照)。
- (5) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

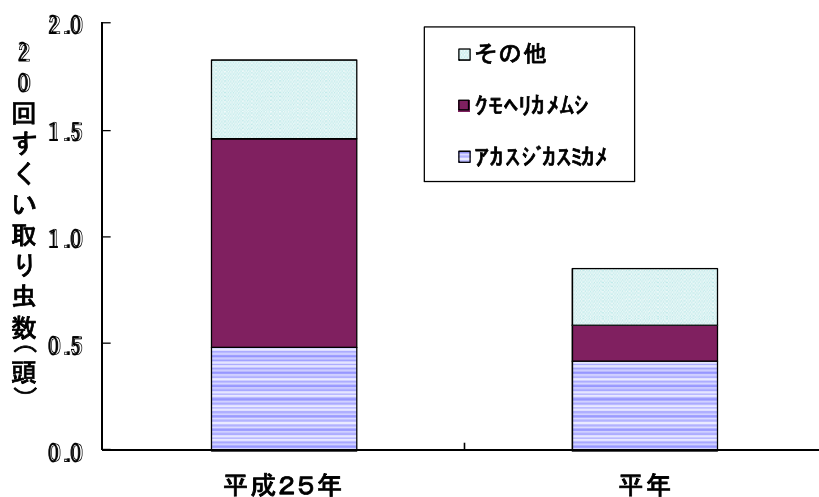


図1 巡回調査におけるすくい取り調査結果 (8月6日～9日)

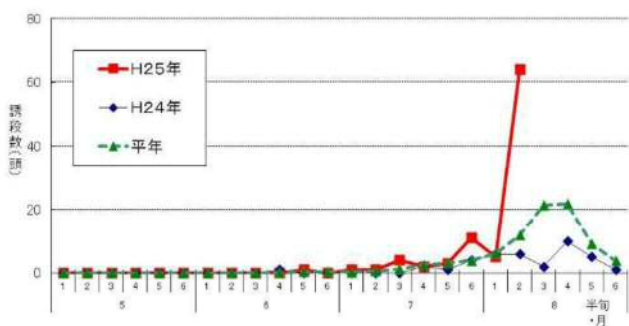


図2 予察灯におけるクモヘリカメムシ誘殺数 (県内4か所合計)

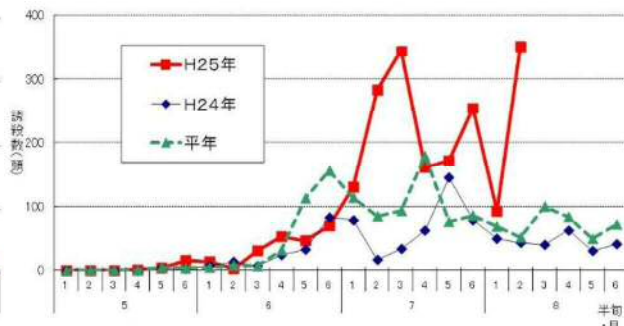


図3 予察灯におけるアカスジカスミカメ誘殺数 (県内4か所合計)



クモヘリカメムシ(体長 16mm前後)



アカスジカスミカメ (体長 4.5~6.0mm)